

添付資料

地域内フィーダー系統確保維持事業に
関する取組・評価概要

令和6年1月

南 城 市

事業名：地域内フィーダー系統確保維持事業

協議会：南城市地域公共交通会議

評価対象期間：令和 4 年度：令和 3 年 10 月 1 日～令和 4 年 9 月 30 日

：令和 5 年度：令和 4 年 10 月 1 日～令和 5 年 9 月 30 日

1 地域の概要

南城市は、平成 18 年 1 月 1 日に 1 町 3 村（佐敷町・知念村・玉城村・大里村）の合併により誕生し、令和 2 年 1 月に合併 15 年目を迎えた。沖縄本島南部の東海岸、県都那覇市から南東へ 12km に位置し、静穏な中城湾と太平洋に面している。東西 18km、南北 8km の広がりを持ち、面積は 49.94km²、西側を除く三方が海岸線に接してはいるが、平坦地が少なく傾斜の多い地形となっている。人口は 46,009 人（令和 5 年 3 月末）であり、平成 20 年以降増加傾向で推移している。

(人)

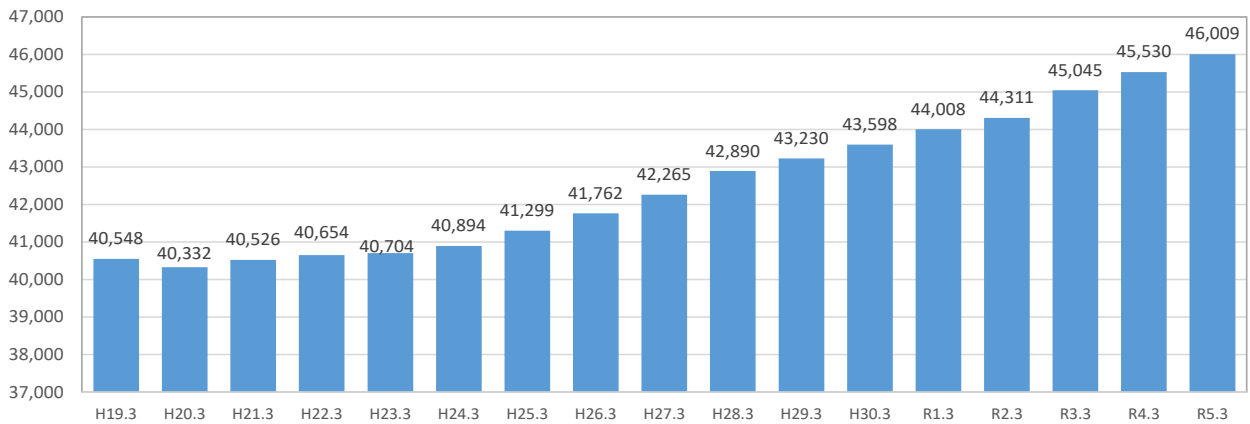


図-1. 南城市の人口推移

2 事業の背景、必要性

本市では、合併以降の人の流れに応じた路線バス網の見直しが行われなかったこともあり、公共交通の空白地域既存の路線バスで対応できないエリア、時間帯の移動を補完するため、平成 25 年度からドア to ドアのデマンドバス「おでかけなんじい」の実証運行を行い、平成 28 年度から本格運行に至っている。平成 27 年度の有償化以降、利用者数は順調に増加してきたが、コロナ禍前には飽和状態に達したこともあり、令和元年 10 月 1 日に公共交通の再編を実施し、市内の移動を担う公共交通として N バス（市内バス）を導入、「おでかけなんじい」は、N バスを補完する交通弱者の市内移動を支えるための公共交通という位置づけの見直しを行った。再編後、「おでかけなんじい」の利用者数は減少したものの、新たに運行を開始した N バスとあわせた市内の公共交通利用者数は、再編前の約 260 人/日から、再編後は約 350 人/日に、令和 5 年現在で約 450 人/日へと増加しており、高齢者をはじめとするバス停までのアクセスに不便を感じている方の貴重な移動手段として「おでかけなんじい」は機能しており、継続的な運行が求められている。

3 地域公共交通会議の概要

3.1 委員の構成

南城市地域公共交通会議は、以下の委員で構成されている。委員長は副市長が務めている。

表 1.南城市地域公共交通会議の委員

区分	所属	役職等
副市長	南城市	副市長
学識者	琉球大学工学部	准教授
沖縄総合事務局運輸部長が指名する部署の長	運輸部企画室	室長
	運輸部陸上交通課	課長
沖縄県の公共交通を担当する部署の長	沖縄県企画部交通政策課	課長
道路管理者又はその指名する者	南部国道事務所	副所長
	南部土木事務所	技術総括
地元警察署において交通規制を担当する部署の長又はその指名する者	与那原警察署交通課	課長
一般旅客自動車運送事業者の組織する団体代表又はその指名する者	一般社団法人沖縄県バス協会	専務理事
	一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	事務局長
一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転手が組織する団体代表者又はその指名する者	私鉄沖縄県労働組合連合会	執行委員長
一般乗合自動車運送事業者の代表者又はその指名する者	沖縄バス株式会社 運輸部	課長
	株式会社琉球バス交通 業務部業務課	取締役部長
	東陽バス株式会社	常務取締役
市民又は利用者を代表する者	南城市老人クラブ連合会	会長
	南城市民生委員児童委員連絡協議会	副会長
	南城市区長会	会長
その他	南城市商工会	副会長
	南城市観光協会	副会長

3.2 地域公共交通会議の開催状況

令和3年、令和4年度において、地域公共交通会議は以下の概要で開催された。

表 2.令和3年度、令和4年度における南城市地域公共交通会議の開催状況

年度	回数	開催日	主な議題
令和3年度	第1回	令和3年6月4日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ●Nバス及び「おでかけなんじい」の利用状況について ●令和3年度の取組(案)について ●「おでかけなんじい」運行計画(案)について ●南城市生活交通確保維持改善計画(案)について
	第2回	令和4年2月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ●令和3年度の取組の実施状況について ●Nバス及び「おでかけなんじい」の利用状況について ●小中校生アンケート結果について ●Nバスの運行見直しについて ●南城市地域公共交通再編実施計画の見直しについて
令和4年度	第1回	令和4年6月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ●Nバス及び「おでかけなんじい」の利用状況について ●令和4年度の取組(案)について ●「おでかけなんじい」運行計画(案)について ●南城市生活交通確保維持改善計画(案)について
	第2回	令和4年10月 (書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> ●南城市地域公共交通再編実施計画の改定について
	第3回	令和5年1月31日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ●Nバス及び「おでかけなんじい」の利用状況について ●令和5年度Nバス運行計画の見直しについて ●令和5年2月の路線バスの運行見直しについて ●南城市地域公共交通再編実施計画の見直しについて

3.3 地域ニーズの把握、反映状況

地域のニーズ把握や、計画等に反映するため、下記の調査を実施している。

- ・令和3年9月 小中高生アンケートを実施。再編後の通学実態や、公共交通の評価、問題点の把握を目的に実施。Nバスの見直しに活用。
- ・令和4年12月 Nバス及び「おでかけなんじい」の利用状況を整理。Nバス及び「おでかけなんじい」の運行見直し、評価に活用
- ・令和5年9月 観光客アンケートを実施。観光客の市内における移動ニーズや、公共交通の利用状況、公共交通に対する要望等を把握、Nバスの見直しに活用。
- ・令和5年10月 市民アンケートを実施。「おでかけなんじい」やNバス等の利用状況や、評価、要望等を把握、Nバスの見直しに活用。

4 事業の概要

令和4年度（R3.10～R4.9）、令和5年度（R4.10～R5.9）における運行形態は下表に示すとおりである。

表 3.「おでかけなんじい」の運行形態(R3.10～R4.9 及び R4.10～R5.9)

項目	内容
名称	おでかけなんじい
デマンドバスの運行範囲	久高島を除く南城市全域
利用対象	南城市を訪れる観光客及び南城市民（年齢制限なし）
利用料金	一人一律、1回500円（未就学児は無料） 75歳以上（市民）は一人一律、1回200円
運行形態	ドア to ドア方式の区域運行（フルデマンド）
運行曜日	平日・休日(土日祝)の毎日 ※12/31～1/3は除く
運航時間帯	●8～20時（8時台～19時台の1時間ごとに運行） ●平日9時台～18時台は3台/時運行 ●その他の時間帯は2台/時運行
運行車両台数	最大3台（5人乗り車両）
利用方法	観光客は登録不要。南城市民は登録制で、利用したい便の30分前までに電話にて予約。ただし、8時台は前日までの予約が必要。

表-4.曜日別時間帯別の「おでかけなんじい」の運行便数

曜日	時間帯												計
	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	
平日	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	34
土曜日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
日祝日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24

表-5.収支の推移

項目	内容	令和4年度 (R3.10～R4.9)	令和5年度 (R3.10～R4.9)
収入	運賃収入	4,684千円	5,402千円
支出	人件費・燃料費等	24,996千円	25,248千円
損益		▲20,312千円	▲19,846千円

※収入、支出は実績（鏡原第一交通提供資料）

5 事業の定量的な目標・効果

「南城市生活交通確保維持改善計画」では、以下に示す定量的な事業の目標を掲げている。

令和4年度の目標・効果

表-6.生活交通確保維持改善計画における令和4年度の目標

項目	現況値 (2021、 R3)	目標値			把握方法	備考
		2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)		
利用者数	47.6 人/日	47.6 人/日	47.6 人/日	47.6 人/日	システム データ	現状維持
1便あたりの利用者数	1.9 人/便	1.9 人/便	1.9 人/便	1.9 人/便	〃	〃
市民(20歳以上)一人あたりに換算した負担額	52 円/月	52 円/月	52 円/月	52 円/月	交通事業者の収入と支出の実績	収入と運行経費の予測をもとに見直し

※現況値は、3月時点の値であるため、当該事業年度の実績と数値が異なる

令和5年度の目標・効果

表-7.生活交通確保維持改善計画における令和5年度の目標

項目	現況値 (2022、 R4)	目標値			把握方法	備考
		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)		
利用者数	51.3 人/日	51.3 人/日	51.3 人/日	51.3 人/日	システム データ	現状維持
1便あたりの利用者数	2.0 人/便	2.0 人/便	2.0 人/便	2.0 人/便	〃	〃
市民(20歳以上)一人あたりに換算した負担額	45 円/月	45 円/月	45 円/月	45 円/月	交通事業者の収入と支出の実績	収入と運行経費の予測をもとに見直し

※現況値は、3月時点の値であるため、当該事業年度の実績と数値が異なる

6 運行実績

6.1 概況

「おでかけなんじい」の運行便数及び利用者数は下表の通りである。

平成 29 年度から令和元年度までは概ね横ばいで推移してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度以降の運行便数、利用者数は大幅に減少していた。新型コロナウイルス感染症が 5 類に位置づけられた令和 5 年度は約 22,000 人となっている。

表-8.「おでかけなんじい」の運行実績の概況

年度	日数	運行便数	利用者数	日当たり 運行便数	日当たり 利用者数	便当たり 利用者数
平成 29 年度 (H28.10~H29.9)	360 日	11,126 便	30,949 人	30.9 便/日	86.0 人/ 日	2.8 人/便
平成 30 年度 (H29.10~H30.9)	358 日	10,983 便	29,929 人	30.7 便/日	83.6 人/ 日	2.7 人/便
令和元年度 (H30.10~R1.9)	361 日	11,003 便	28,794 人	30.5 便/日	79.8 人/ 日	2.6 人/便
令和 2 年度 (R1.10~R2.9)	358 日	9,570 便	18,826 人	26.7 便/日	52.6 人/ 日	2.0 人/便
令和 3 年度 (R2.10~R3.9)	358 日	9,197 便	17,674 人	25.7 便/日	49.4 人/ 日	1.9 人/便
令和 4 年度 (R3.10~R4.9)	361 日	9,445 便	20,273 人	26.2 便/日	56.2 人/ 日	2.1 人/便
令和 5 年度 (R4.10~R5.9)	358 日	9,815 便	21,813 人	27.4 便/日	60.9 人/ 日	2.2 人/便

6.2 日当たりの運行便数

「おでかけなんじい」の運行便数は、新型コロナウイルス感染症の流行状況によって変動がみられ、日当たりの運行便数は、令和4年度が24便/日～27便/日となっていた。新型コロナウイルス感染症が5類に位置づけられた令和5年度は、25便/日～29便/日となっている。

便/日

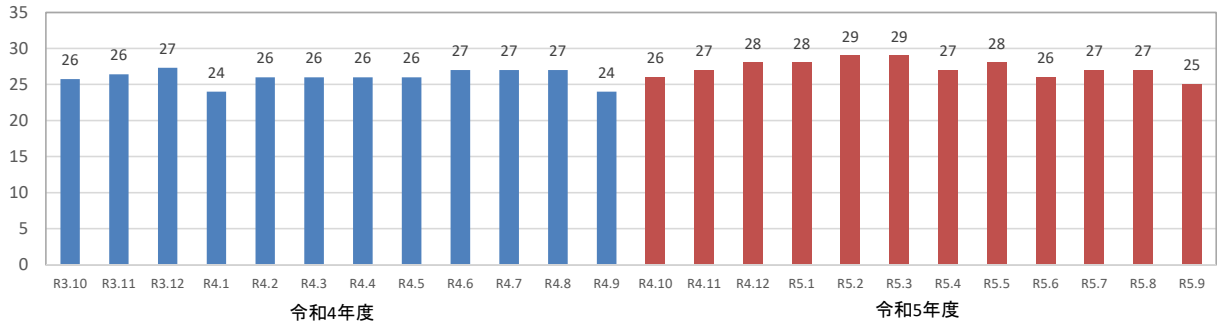


図-2. 「おでかけなんじい」の日別運行状況の推移

6.3 日当たりの利用者数

便数同様に「おでかけなんじい」の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の流行状況によって変動しており、日当たりの利用者数は令和4年度が47人/日～62人/日となっていた。新型コロナウイルス感染症が5類に位置づけられた令和5年度は、57人/日～67人/日となっている。令和4年度は最大で62人/日であったが、令和5年度は最大で67人/日と、回復傾向にある。

(人/日)

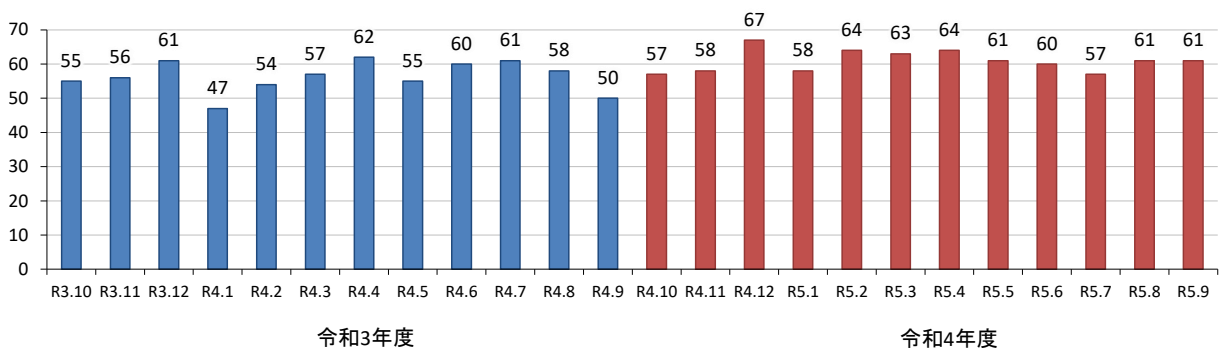


図-3. 「おでかけなんじい」の日別利用者数の推移

7 事業実施の適切性

運行計画にもとづき、令和4年度、令和5年度の事業は適切に実施された。

表 9.令和4年度の「おでかけなんじい」の運行状況

計画運行回数	運行回数	運行割合
11,104回	9,425回	84.87%

表 10.令和5年度の「おでかけなんじい」の運行状況

計画運行回数	運行回数	運行割合
11,124回	9,815回	89.05%

8 目標・効果達成状況

令和4年度及び令和5年度に作成した生活交通確保維持改善計画にもとづき、目標達成状況を評価した。

8.1 1日当たり利用者数

令和4年度（目標 47.6 人/日）及び令和5年度（目標 51.3 人/日）の1日当たり利用者数は、それぞれ 56.2 人/日、60.9 人/日と、どちらも目標を上回った。令和4年度、令和5年度ともに利用者数は増加しており、回復傾向にある。

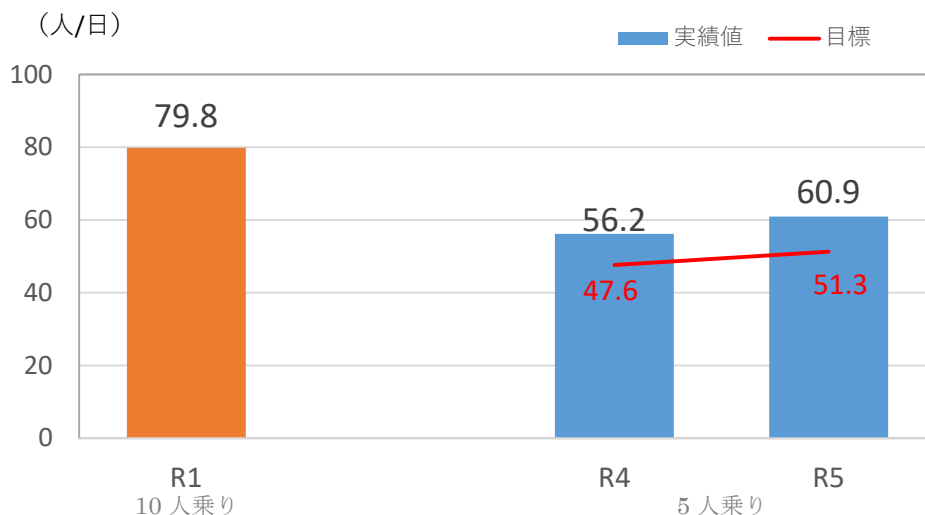


図-4. 「おでかけなんじい」の日平均利用者数の推移

8.2 1 便当たりの利用者数

令和4年度（目標 1.9 人/便）及び令和5年度（目標 2.0 人/便）の1便当たりの利用者数は、それぞれ 2.1 人/便、2.2 人/便とどちらも目標を上回った。なお、コロナ禍前の令和元年度は 2.6 人/便となっており、コロナ禍前までの利用状況には回復していない。

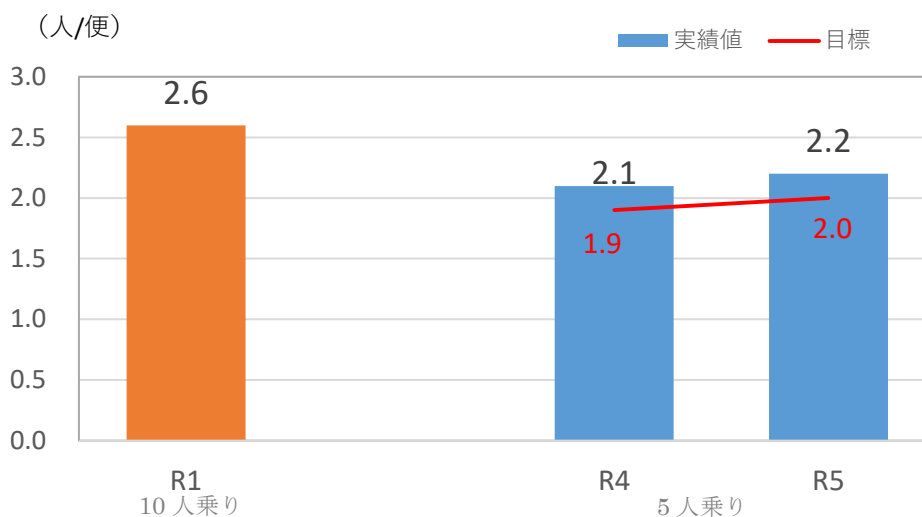


図-5. 「おでかけなんじい」の1便当たりの利用者数

8.3 市民（成人）一人当たりに換算した負担額

令和4年度（目標 52 円/月）の市民（成人）一人当たりに換算した負担額は、48 円/月と目標を達成できたものの、令和5年度（目標 45 円/月）は、47 円/月と目標を2 円/月上回った。

表 11. 「おでかけなんじい」の市民一人当たりに換算した負担額

年度	支出	収入	負担額	成人人口 (各年3月)	成人一人当たりの負担額
令和4年度	24,996 千円	4,684 千円	20,312 千円	35,232 人	48 円/月
令和5年度	25,247 千円	5,401 千円	19,845 千円	35,495 人	47 円/月

※20 歳以上の人口は住民基本台帳より

8.4 目標達成状況のまとめ

新型コロナウイルス感染症による利用者減の影響の状況もあったため、前年度の利用実績を踏まえ目標を見直していることもあり、令和4年度は「利用者数」、「1便当たりの利用者数」、「市民(20歳以上)一人あたりに換算した負担額」の3項目ともに、令和5年度は「利用者数」、「1便当たりの利用者数」の2項目で目標を達成している。

表 12 .令和4年度の目標達成状況のまとめ

項目	現況値(R3)	R4 目標値	R4 実績値	達成状況
利用者数	47.6 人/日	47.6 人/日	56.2/日	○
1 便当たりの利用者数	1.9 人/便	1.9 人/便	2.1 人/便	○
市民(20 歳以上)一人あたりに換算した負担額	52 円/月	52 円/月	48 円/月	○

※現況値は、3月時点の値であるため、当該事業年度の実績と数値が異なる

表 13 .令和5年度の目標達成状況のまとめ

項目	現況値(R4)	R5 目標値	R5 実績値	達成状況
利用者数	51.3 人/日	51.3 人/日	60.9/日	○
1 便当たりの利用者数	2.0 人/便	2.0 人/便	2.2 人/便	○
市民(20 歳以上)一人あたりに換算した負担額	45 円/月	45 円/月	47 円/月	×

※現況値は、3月時点の値であるため、当該事業年度の実績と数値が異なる

9 今後の改善点

本市では令和元年9月10日付で認定を受けた「南城市域公共交通再編実施計画」に基づき、令和元年10月1日より交通再編を実施し、市内の主な移動手段としてNバス(市内バス)を導入した。

新型コロナウイルスの影響で、「おでかけなんじい」の利用者数は減少したものの、Nバスと合わせた市内区間の利用者数は、コロナ禍前の約260人/日から、令和5年は約450人/日へと増加しており、今後も引き続き「おでかけなんじい」はNバスを補完する役割としてNバスが運行しない交通空白地帯や交通弱者(高齢者等)の移動を担うとともに、運行見直し検討基準や交通会議等での意見を踏まえ更なる利便性向上に努めることを継続していく。



図-6. 「おでかけなんじい」の車両